

## Birmingham 留学記

広島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 准教授 上田勉

### はじめに

このたび竹野教授の大親友である Make Wake 先生にご紹介頂き、Prof. Hisham Mehanna のもとバーミンガム大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科で2ヶ月間研修させていただきました。新しいことをせずにいると老化現象が進行すると思っている矢先にこのようなお話を頂き、准教授という雑務の多い状況の中、医局の先生方、秘書さんやその他関係の諸先生方に多大なご迷惑をかけてしまいましたが、とても貴重な経験をさせていただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、バーミンガムという地名を知らない方が多いと思われるが、とても素晴らしい所ですので、ここで紹介させていただきます。是非若い人から私のようにある程度年を重ねた人まで興味を持っていただければ幸いですし、私の留学の体験談からさらに多くの方がバーミンガムに限らず海外留学に興味を持っていただければと思っております。

まずどこにあるかですが、イギリス、イングランド中部に位置します(図1)。私も名前だけは聞いたことがありましたが、全く知りませんでした。ロンドンに次ぐ第2の都市です。中心部は近代的な建物と歴史的建造物が融合したとてもきれいな街並みで、ガス・ストリート流域というきれいな運河が張り巡らされており、入場料無料の大きな美術館や博物館もあります。交通手段はロンドン発の高速鉄道や高速道路があり、オックスフォードやリバプールなどにつながる鉄道の主要拠点でもあります。バーミンガムの街中はバスでどこにでも行けますし、急ぐときはUberを使っていました。車社会なので国際免許を持って行った方がいいですが、交差点がroundaboutであり慣れるのに少しかかると思います。



(図1)

### 渡航前

留学が決まり、全く情報がありませんでしたのでまずはネット検索から始めました。するとある大学の外科の先生の留学記が1件ヒットしましたので、私の数少ない貴重な人脈

の伝手を使うことでその先生とメールでのやり取りを始めることができました。渡航準備、現地での生活、観光や暇な時の勉強場所などを色々教えていただきました。このような情報があったおかげでスムーズに留学生活がおくれたとっております。(逆に1件しかヒットしないということは日本で知る人ぞ知る未知の場所とも言えます。実際バーミンガムでは日本人に合うことは一度もありませんでした。)

渡航準備は行かれたことのある方はご存知と思いますが海外ですので、事務処理に少々時間がかかります。早め早めの準備をおすすめします。(私も渡航2週間前くらいにようやくすべての書類がそろいました)

英会話は、ほぼ挨拶くらいしかできない状況でしたので、日本にいる間、通勤の車の中や自宅で毎日英語を聞くようにしていました。また、ヒースロー空港(ロンドン)の入国審査はとても厳しいと聞いておりましたので、有利になると思われる書類(留学許可証、銀行残高証明書、帰りの航空チケット、滞在先住所)などをファイリングして、機内に持ち込むリュックの中に入れておきました(必死です・・・)。

滞在先ですが私の場合 B&B という民泊を選びました。シングルルーム使用、2ヶ月で15万程度と物価の高いイギリスではまずまず安いのではと思います。

### 出発～バーミンガム

ちょうど台風が接近する時期でしたのでハラハラしましたが何とか飛行機は飛び立ちました。仁川空港での乗り換えのあと12時間のフライトでヒースロー空港に到着しました。ここからドキドキの入国審査です。しかし、日本人とわかってなのか、運よく親切な審査官だったのか、私でもわかるわかりやすい英語で5、6個質問され、用意していた書類を出すことなく通過できました。この日は夜の到着でしたのでヒースロー空港からチューブ(地下鉄)でロンドン市内まで行き、ロンドンに一泊しました。イギリスでは古く年代物の建物の方が価値があるとされており、修繕しながら使用されておりますので、ロンドンの中心部のホテルはとても古くて高いです。私が宿泊したホテルも狭く、階段もない4階に部屋がありましたので大きなスーツケースを引きずりながら汗だくになって上がりました。(もっといいホテルはお金を出せばたくさんあります(笑))

次の日 Euston 駅(ロンドン)からバーミンガムに約1時間半の高速鉄道で向かいました。ここでイギリスのあるあるですが、列車の出発ホームが出発10分前にならないと決まりません。そのため大勢の人々が電光掲示板の様な時刻表を見上げてまだかまだかと待機しており、ホームが決まった瞬間に皆、一目散に走りだします。

ロンドンから少し離れると羊や牛、豚が放牧されている牧草地が延々と広がります。第二の都市と聞いていたので、少し不安になりながら車窓を覗いているとバーミンガムに近づくとつれ、突然近代的な建物や歴史的な教会などが立ち並ぶ大都市へと風景が一変しました。バーミンガムニューストリートという駅舎もとてつもなく巨大で迷子になりそうなくらいでした。

## バーミンガム大学にて

私の研修は主に手術、外来の見学と Institute of Head and Neck Studies and Education (InHANSE) という研究室でのミーティングでした。バーミンガム大学に併設された Queen Elizabeth Hospital Birmingham (QE) (図2) は 1400 床の大病院で、初めのうちはいつも迷子になり、いろいろな人に道順を教えてもらいながらの生活でした。到底病院全体を把握することは困難であり、いつも使う3つの手術室（手術室も3階建てです）、外来と Multidisciplinary Team (MDT) が開催される場所は確実にたどり着けるようになりました。



(図2)

私の偏見でしたが、手先が器用な日本人の方が手術は得意なのかと思っておりましたが、やはりどこでもうまい人はうまいんだなと思いました。QE では耳下腺、甲状腺、咽喉頭の手術は Ear Nose Throat (ENT) surgeon と Head and Neck Surgeon が担当し、顔面口腔と再建手術は Oral and Maxillofacial Surgeon という口腔外科と医者（頭頸部＋形成外科）のダブルライセンスを持つ医師が担当していました。再建手術でないもので術後管理がいない症例（耳下腺、甲状腺半切など）は ambulatory theatre という外来手術室を使用し、当日外来受診し全身麻酔下手術、翌日問題なければ退院となります。術後出血やトラブルが多発しそうな予感がしますが、遠方の患者でも帰宅するようでトラブルはほぼないそうです。再建手術も主に4人の Consultant (専門医) が切除と再建をローテーションしながら週3～4日の再建枠をこなしていました（手術もきれいで速いです）。

外来は日本と医療制度が大きく異なるので詳細を説明すると長くなるので割愛しますが、General Practitioner (GP) という総合診療医からの紹介と術後患者を診察します。電子カルテですが、紹介状の返事やカルテ内容は付属のマイクにしゃべることで別の場所にいる

担当の方がタイピングして書面にしているようです。びっくりしたことは Consultant などある程度上級医になると白衣を着ることなく、スーツで診察しています。白衣は研修医や学生が着ているようです。余談ですが、医師、看護師ともに患者と話しをするときは脚を組み、椅子にのけぞる感じで対応しています。(日本では考えられませんが・・・) また外来診察の途中でコーヒータイムとお菓子タイムがあり、カラフルなケーキを看護助手さんが持ってきてくれて楽しみの一つでもありました。

MDT は広島大学でも以前より開催しておりますが、QE はとても充実しており水曜日の朝 10 時から 2、3 時間かけて 4、50 人の参加人数で行います。多職種が激しい討論を繰り広げておりとても圧倒されました。(実は初めて病院に行ったときに MDT からの参加でしたので、このような緊迫した会の合間にいきなり立たされて拙い英語で自己紹介をさせられました(泣))。また幸運なことに、私が留学中にバーミンガム大学主催で European Head & Neck Course 2018 (図 3) という 4 日間の朝から夕方まである有料の研修会があったのですが、主催ということでご厚意により無料で隔っこから参加させていただきました。ヨーロッパの名だたる先生方のレクチャーやシンポジウムを拝聴でき診断から治療まで日本との考え方の違いも含めて貴重な経験となりました。



(図 3)

## 日々の生活

QE から我が B&B までは地図で見た以上に距離があり、往復 1 時間以上かけて徒歩で通勤しておりました。そのおかげかイギリスの食事のおかげかみるみる体重が減少し、5kg 以上は減ったと思います。外食や交通機関はとても高いです。逆にスーパーはとても安価なので、極力自炊をしました。特にスーパーの肉類や乳製品は日本と比べものにならないくらい安いですし、普通に美味しいです。

UK にいて一番上達したことは横断歩道など道路の渡り方です。地元の方は上手に信号無視して渡ります。はじめはなかなか渡れませんでした。が、地元人並みに渡れるようになりました(笑)

英会話に関しては 1 ヶ月くらいみんなの会話が全く分かりませんでした。が、手術中や外来でブロークンの英語でもなんでも質問していくと色々教えてくれます。わかったふりをすると次からとてつもなく早いスピードでしゃべられるので、わからないときはわかったふりをせずわからないと意思表示をする方がいいと思います。(時にはめんどくさそうにされますが、めげずに話しかけることがいいのではと思いました。) ある程度たって、逆に全部を聞き漏らさずに完璧に聞こうとしなくなってきたからは、言わんとすることの概要はなんとなくわかるようになりました。ただ、2 か月目に入ってもみんなが楽しそうにしゃべっていることは全く分からず、疎外感を感じることも多々ありました。

イギリスの方は時間に正確です。とてもまじめで、ある意味日本人と気質は同じなのかなと思います。

治安ですが、日本のように安全とはいきません。私がいる間に 2 件アジア人への襲撃のニュースがありました。冬場は 16 時には真っ暗になりますので、なるべく明るい道を歩きました。ロンドンでは夜間歩行中に後ろからポケットに手を突っ込まれることもありました(何も入ってなかったのが良かったですが…) 自身で慎重に緊張感をもって行動することが重要だと思いました。私が今回留学するにあたり、色々相談させていただいた外科の先生のご友人の言葉で“留学は生きて帰ってこられれば、成功。何かが得られれば大成功”という言葉をお教えました。とても共感したのでご紹介させていただきます。もしバーミンガムや UK にご興味があれば、少しでもお役に立てるのではないかと思いますし、HP に書けないこと?もお話しできると思います。是非ご連絡いただければ幸いです。